

仔牛

新美南吉

青空文庫

仔牛が ある 日 お父さん牛と お母さん牛の ところへ
 いつて、

「父ちゃん 母ちゃん、あたゐ 體の 中が むぢゆむぢゆすん
 の。」と いひました。お父さん牛も お母さん牛も すつかり
 よろこんで よだれを たらしました。そして お母さん牛が
 いひました。

「坊や その むづむづするのはね、今に 坊やの 體から 何
 かゞ 生えて くるのよ、さあ それでは、あの 丘の 南の
 なの花畑ばたけの 中へ はいつて、ぢつと すはつて ゐなさい、何
 か 生えて くるまで 待つて ゐなさいね。」と いひきかせ

て、仔牛を一人きり送つてやりました。

仔牛がいつてしまふとお母さん牛はむねをおどらせながらお父さん牛にいひました。

「ね、あの仔は世界中で一番美しい仔牛だから、今にきつと肩の下から、いつかほら丘のふもとで池の上にうかんでたあの白鳥のやうな美しい白い羽が二つ生えますよ。」けれどお父さん牛は大きな顔を横にふりました。

「なにを馬鹿な。けものに羽など生えるもんか。けものに生えるものは角にきまつてる。だがあれは、なかなか勇ましいやつだ。だからきつと鹿の角みたいになりつ

ばな、枝の ある 角が できるだらう。」

「おゝ いやだ、あんな みつともない もの。あんな いやなものか あのかはいゝ 仔に 生える ものですか。きつと羽が 生えます。もし あの子に 羽が 生えないなら わたし、この しつぽを あげても よろしいわ。」

「そんな へんてこな しつぽなんか いらぬよ、縄つきれの方が よつぽど ました。お前が さう いふなら わしはかう いふ。もし あれに 鹿の 角が 生えないなら、わしはわしの ひづめを やらう。」すると お母さん牛は 大きな顔を できるだけ しかめて、

「そんな ひづめより 道ばたに おつこつて ある お椀の

かけらの方がましですわ。」といひました。

丘の南のなたね畑の中でじつとまつてゐた仔牛の頭に、やがて小ちやく生えて來たのは、白鳥の羽でもなく、鹿の角でもなく、ふつうの牛のまるい角でした。仔牛がお父さん牛とお母さん牛のところへかへつて來ると二人の親牛は眼をしばたゝいてよろこびました。そしていひあひしました。

「まあ、よかつた。でも何てりつぱな牛になつたことだらう。」

青空文庫情報

底本：「校定 新美南吉全集第四巻」大日本図書

1980（昭和55）年9月30日初版第1刷発行

1987（昭和62）年2月15日第3刷発行

初出：「ろばのびっぴ」羽田書店

1950（昭和25）年6月5日

入力：高松理恵美

校正：川向直樹

2005年3月17日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.azora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

仔牛

新美南吉

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>